

CSR

コミュニケーションBOOK VOL.1

未来のために、^{いま}現在できること。



大阪商工信用金庫



2021年のノーベル物理学賞が日本人の真鍋氏に授与されました。
真鍋氏は今から54年も前の1967年に、大気中のCO₂の量が2倍になると
地上の温度が2.3度上昇すると初めて実証しましたが、これが世界が地球温暖化対策に
本腰を入れる契機となったことを評価されてのものです。

さて皆さんには近年の異常気象をどう感じていますか。
夏は連日35度を超える猛暑日が続きます。秋には超大型の猛烈な台風が上陸します。
さらには100年に一度といわれる豪雨も日本中で発生します。
人間が生きていくのが年々大変になってきています。
経済効率最優先のために、熱効率が良いがCO₂を排出してしまう化石燃料に依存しそぎた
結果なのでしょう。

このような異常気象環境を子どもや孫たち世代のために改善しなくてはいけません。
行き過ぎた流れを変えて「脱炭素」のもとに自然と共生する社会を再構築することが必要です。
温暖化対策を実施しつつ経済を冷え込ませぬようにコントロールするのは至難の業ではありますが、
これに挑戦していくことが求められています。
わが国としては2020年10月に「脱炭素」に邁進するという決意が国会で示されました。
当金庫としても子どもや孫たちのために
今出来ることを確りと一歩一歩進めて参りたいと思っております。



脱炭素社会構築に 貢献しよう。 理事長 多賀 隆一

その第一は、「再エネ100宣言」です。

当金庫自身が使用するエネルギーを2050年までに
100%再生エネルギーに置き換えていくというものです。
途中ラップとして2030年までに20%を置き換えます。
このような宣言を既に公表しホームページにも掲載いたしました。

第二は、環境関連債やSDGs関連債への積極的な投資です。

2021年9月現在で累計19件54億円の投資を実施済です。
国内企業が環境に配慮した形の設備投資を行うための社債調達に
当金庫が資金を供給し、間接的に脱炭素に一役買っております。

このように当金庫も脱炭素に貢献すべく歩みを始めたところです。
また今後についてはお客様へのコンサルタントやご相談業務等を通じて、
お客様が脱炭素対策実施の際にお役に立って参りたいと考えております。
こうした活動を通じてお客様と共に「社会貢献と利益の両立」を
実現して参ります。

二酸化炭素が増えると 地球の表面温度が上昇するそうです。

【脱炭素って何?】

地球温暖化の原因となる温室効果ガス(GHG)、とりわけ大きな影響をもたらす二酸化炭素(CO₂)の排出を抑制し、GHGの実質的排出ゼロ(カーボンニュートラルとも呼ばれる)を目指すことです。「実質的排出ゼロ」というのは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味しています。

2020年10月、菅前総理大臣が所信表明において「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする。すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言したことにより、脱炭素への取組が加速しました。

CARBON NEUTRAL



【なぜ脱炭素に取組まないといけないの?】

自社だけでなく、サプライチェーン全体で脱炭素を目指そうという企業の動きが国内外で拡大しています。国内では、積水ハウスやトヨタ自動車、イオン等は既にサプライチェーンのCO₂排出量の管理を開始することを表明しています。脱炭素への取組をしていないことが経営リスクに繋がる可能性がありますが、脱炭素への取組みによって、新しいビジネスチャンスに繋がります。

【大阪商工ファインダーサービスとは?】

「脱炭素の取組みに向けてどのように対応すればいいのかわからない…」といったお悩みを支援するため、2021年4月より「脱炭素・再生可能エネルギー」についてのファインダーサービスを開始しました。



【再エネ100宣言 RE Action】

再エネ100宣言 RE Actionとは、企業、自治体、教育機関、医療機関などの団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する新たな枠組みです。大阪商工信用金庫は2021年6月からこの取組に参加し、今までに『生野支店』の使用電力をすべて再生可能エネルギーに切り替えていました。



【COOL CHOICE】

「COOL CHOICE」は環境省が推奨する、CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしていくという取組です。大阪商工信用金庫はこの取組に賛同し、オリジナルシールを作成、スイッチやPC等に貼付することで、全職員が省エネへの意識付けを高めています。



SDGsって、なんなん？

【SDGs(持続可能な開発目標)とは】

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、貧困や飢餓から環境問題、経済成長やジェンダーに至る広範な課題が網羅的に示しています。地球上の「誰一人取り残さない(Leave no one behind)」を誓い、先進国と途上国、企業、個人全員が目標達成に向けて取組むことが求められています。

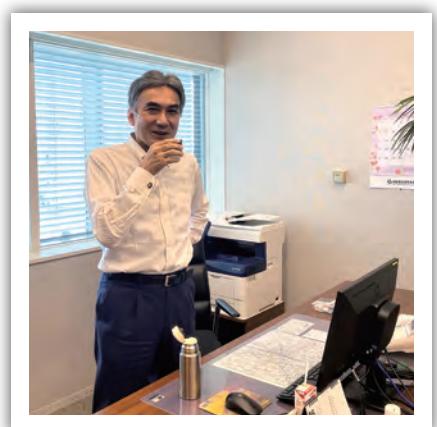
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【商工SDGs月間、やってます。】

アイデアを出し合い、17のゴールに向けた目標を職員全員が1か月間取組んでいく活動です。

会長は
マグカップ派、
理事長は
マイボトル派。



【取組内容紹介】

①本部:『マイカップ運動』

マイカップを使用することで、1か月に約3,000個以上の紙コップを削減することができました。活動が好評なので、商工SDGs月間活動期間終了後も取組を続けています。



②本店営業部:『紙の使用削減』

コピー用紙の使用削減を意識することで、1か月に約5,000枚以上の削減をすることが出来ました。また、お客様に通帳レスを推進し、紙資源の使用削減に努めました。商工SDGs月間活動期間終了後も取組を続けています。

コピーする
ときは
両面で！



12 つくる責任
つかう責任



③阿倍野支店:『防災啓発』

阿倍野区役所と連携し、区の「防災マップ」と「防災マニュアル」を店頭に掲示・配布することにより、お客様への意識啓発を行いました。

日頃から
備えあれば
無いなし！



13 気候変動に
具体的な対策を



④東成支店:『鉄道業・道路旅客運送業等への金融支援アプローチ』

産業と技術革新の基盤を支えているインフラ業界への金融支援を目的としたアプローチを行いました。

お役に
立てるこことは
ありませんか？



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



⑤生野支店:『脱プラス!の啓発』

プラスチックフリーへの第一歩として、「バイオマス素材のゴミ袋」と「脱プラスチックの啓発チラシ」をお客様に配布しました。

身近な
ものから
変えましょ！



14 海の豊かさを
守ろう



【取組内容紹介】

⑥高井田支店:『本の寄贈』

職員から集めた26冊の本を大阪府立中央図書館に寄贈しました。
私達の得た知識を次の人にバトンタッチ！

この本
おススメやで！



⑦長田支店:『まちづくり』

店周にある公園での清掃活動や国土緑化推進機構が運営する「緑の募金箱」を通じての募金活動、東大阪市が推奨する「こども110番の家」運動への登録と掲示を行いました。

声を掛けてくれた
子どもたちも
一緒にになって
掃除してくれました！



⑧八尾南支店:『緑の種をまこう』

大阪に緑を増やすため、ハーブの種とチラシをお客様に配布しました。一人一人の身近な活動がSDGs達成のカギを握っています。

ベランダから
緑を増やします！



⑨平野支店:『健康のカギはタンパク質!』

タンパク質の重要性とレシピを公開し、健康についての啓発活動を行いました。支店職員も実際にタンパク質を意識した食生活を送り、健康への意識を高めました。

メタボも
改善!?



⑩日本橋支店:『家族との時間を大切に』

NVC(Nonviolent Communication=非暴力コミュニケーション)を意識するとともに、定時退社を実施し、家族との時間を大切に過ごしました。また、虐待などに対する啓発ポスターを職員が手作りし、店頭に掲示しました。

いつも奥さんに
任せている
お迎えに初めて
行きました!



⑪堺支店:『省エネを徹底』

電源スイッチにSDGsロゴを貼り、職員への省エネへの意識付けを行うと共に、定時退社を実施しました。

つけっぱなしにしない!
が合言葉



皆さんの活動を持続させる チカラになりたい。

第15回「大阪商工信金社会貢献賞」受賞団体紹介

持続可能な社会の実現のために地域貢献活動に取組む団体や、社会課題の解決というミッションを最優先に、社会性と事業性を両立させた事業（または、商品・サービス）を顕彰し、その活動を支援する。それにより国連で採択されたSDGsが掲げる17の目標の達成を促進し、その取組みモデルが各地に広がることを期待して、今年第15回の受賞団体を下記のとおり決定し、表彰にあわせて「大阪商工信金社会貢献活動助成金」を授与いたしました。

1部 地域貢献の部

■特定非営利活動法人あつとすぐーる



ひとり親家庭の子どもたちに向けた学習塾を通して学習機会の提供を行うとともに、諸団体との連携による家庭環境や学校生活といった背景のサポートを実践し、教育格差の是正に尽力している。コロナ禍において、積極的にオンラインツールを活用するなど、活動の発展性が高く、多角的な視点からの支援を可能としている。ひとり親家庭支援における全国のモデルとなることが期待できる。

■一般社団法人officeドーナツトーク



学校内に「高校生居場所カフェ」という家庭・学校／職場以外の「サードプレイス」を作ることにより、高校卒業支援活動を行っている。次世代の貧困層を作らない活動をするとともに、多感な時期である高校生にとっての心の拠り所となっている。社会との繋がりを構築した発想力と行動力も素晴らしい、既に全国的なモデル事業として広がっている実績からも、貢献度は高く評価される。

■特定非営利活動法人クロスベイス



多国籍化と子どもの貧困化が進む生野区において、産学官一体となって「多文化共生」のまちづくりを目指し、学力支援や進学支援に力を入れている。大学への進学を想定していない家庭の子ども達が、小中学生の頃から大学のオープンキャンパスや文化祭に参加できることは貴重な経験となり、将来の選択肢が広がる重要な取組である。「誰一人取り残さない」を実現するため活動を続けていることは高く評価される。

■こらぼれチップス



孤立した子育てや虐待が社会問題となる昨今において、子育て広場やチャイルドラインの運営を通して、誰もが安心して集える居場所や子どもたちの心に寄り添うセーフティネットを構築し、親と子への支援活動を長きにわたり行っている。スタッフは元利用者も多く、地域のみんなで子育てをするという代表の理念のもと親から子、孫世代へと受け継がれる支援活動として地域になくてはならない存在となっている。

2部 ソーシャルビジネスの部

■ MARBLE WORLD NETWORK



発達障害児、ギフテッド児の成長及び第2ステージのサポートと将来の周辺環境の整備を行う。チャイルド・ライフ・ソポーター®の育成と増員、相談業務をビジネス化することにより、より多くの子育ての悩みを発掘し、一律に発達障害児と捉えず、子どものユニークさを発掘し養育する親と共に、将来までサポートしてゆく事はSDGs「誰一人取り残さない」の理念に沿った活動であり多くの親子が救われる。

■ 株式会社良心塾



「職親プロジェクト」の発足メンバーとして少年院出院者・刑務所出所者の教育・就労・居住の支援を行い、ビジネス化することにより社会復帰又、復帰後の継続的支援を拡大する。再犯検挙者約7万人が無職であることから社会復帰が犯罪防止のカギとなっており、犯罪者の社会復帰への道筋は行政も行き届いておらず、当活動は、SDGs「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」の理念に沿ったもので高く評価される。

3部 コロナに負けない。の部

■ 特定非営利活動法人いくの学園



「暴力のない、一人一人が尊重される社会」を目指し、DV防止法が施行される前から、パートナーによる暴力を社会課題として捉え、活動を続けている。緊急を要する一時保護から中期的な居住の提供、自立支援までを一貫とした支援形態を構築している。コロナ禍による社会不安やストレスによりDV被害は増加しており、電話相談窓口拡大に向けて積極的に取り組むなど、コロナ禍に負けず活動を続けている点が高く評価される。

■ 一般社団法人いくのもり



生野区の特性を生かしたまちづくりを長年に亘り行ってきた。他にはない発想力と確かな行動力で行政、市民、企業を巻き込んだまちづくりを実現している。1回目の緊急事態宣言発令後わずか3日で、飲食店支援である先払いチケット「かならずいくのチケット」の取扱いを開始し、その後も支援の手を緩めることなく、生野区を盛り上げるため活動を続けており、全国的なまちづくりのモデル事業となることが期待できる。

■ 特定非営利活動法人Code for OSAKA



大阪の課題をIT・ICT技術を生かして解決すべく、シビックテック活動に尽力してきたことにより「コロナに負けない」という意識の下、産学官の協働を誕生させ、「大阪府コロナウイルス感染症対策サイト」のシステムを構築させた点は大いに評価される。また、大阪府との事業連携協定により今後もコロナ禍及びアフターコロナでの大阪の発展や大阪に潜在する社会課題の解決に貢献されることが期待できる。

第12回「さくら賞」

■ 公益財団法人日本アニマルトラスト



団体設立から30年以上、「殺処分ゼロ」を目指した動物保護活動やTNR(地域猫活動)を続けている。次世代を担う子どもたちに、人と動物の共存、命の重さについての講演活動も行っている。「生きとし生けるもの、命の重さはみな同じ」という考え方のもと、人間と動物が共生できる社会の構築に寄与し、人間の身勝手により失われる動物の命がなくなる未来を目指して活動を続けている点が高く評価される。



地球温暖化防止のためにご協力おねがいします。



【信用金庫の日】

今年は「SDGs・脱炭素」をテーマに活動を行いました。ご来店いただいたお客様やご訪問先にSDGsホイールのようにカラフルな7色の花の種をプレゼントしました。また、当日は車やバイクの使用を控え、公共交通機関や自転車、徒歩等で移動することにより、排気ガスの排出を抑える活動を行いました。



感染者や医療従事者への差別や偏見をなくそう。



【シトラスリボンプロジェクト】

シトラスリボンプロジェクトは、コロナ禍で生まれた差別、偏見をなくしていくこうとするプロジェクトです。

シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。

リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)を表しています。

第一弾:本支店窓口にサインボードの設置

第二弾:オリジナル現金封筒配布

第三弾:シトラスリボン作成キットの配布

第四弾:シトラスリボンキーホルダーの配布

第五弾:職員のシトラスリボンキーホルダー着用

心から暮らしやすいまちや社会を目指すため、一人でも多くの人にこの活動が広まるよう

大阪商工信用金庫は活動を続けていきます。

また、シトラスリボンの作成には就労継続支援事業をされている『合同会社アイキヤン』・

『特定非営利活動法人あゆみ俱楽部 あゆみ工房』・『株式会社PASまいんど』にご協力いただきました。

この印刷製品
は、環境に配慮
した資材と工場
で製造されて
います。
P-B10114